

平成27年度 学校自己評価表

(計画段階・実施段階)

福岡県立行橋高等学校長 印

6

その1

学校運営方針		創造性豊かで、社会の変化に主体的に対応し、明るく心豊かなたくましく生きる、実践力を持った産業人を育成する。		
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標	評価(3月)
行橋高校は「常により高きを求めて」という校是のもと、「何事も一所懸命に頑張る生徒を応援します」をスローガンに、ポイント制を導入した結果、生徒の服装・身だしなみは著しく向上した。また、生徒の態度も落ち着いてきており、資格取得や各自の進路目標に向けて頑張っている。 地域からの評価も高まり、生徒・教師とともに、新たな学校作りにも自信と誇りをもって取り組んでいる。更に活気とやる気に満ちた学校を目指す為に、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に努め、総合型専門高校としての魅力ある学校づくりを推進し、地域に生かされる人材づくりを目指すとともに地域社会から歓迎され親しまれる学校づくりを推進する。		①生徒の資質・能力や個性に応じた専門力を育成する。	高い専門力を有した教師のもと、新しい取り組みに挑戦し、生徒の専門力を向上させる。	
		②さわやかでけじめのある、基本的な生活習慣が身についた人間を育成する。	ポイント制で生徒の頭髪、服装の整備を徹底し、基本的な生活習慣を育成する。生徒との対話をとおした、心にひびく指導を心掛ける。	
		③基礎基本を重視し、基礎学力の充実を図り、意欲的に学ぶ姿勢を育成する。	魅力ある授業づくりを行うとともに、個人面談を充実させ、生徒の意欲を喚起する。	
		④資格取得を奨励し、社会の変化に対応できる進路指導の確立を図る。	資格、検定試験、模試、校内実力考査を実施する。 サポート講座を実施する。	
		⑤気力・体力に溢れ、健康でたくましい心身を育成する。	部活動や生徒会・家庭クラブ・農業クラブ活動の活性化を推進する。学科間連携を推し進め、福岡県オリジナルブランド品開発及び校外奉仕活動等を行い、生徒による地域貢献を推進する。	
		⑥他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を持って人権を尊重する精神を育む。	人権教育推進委員会を中心に、人権教育の推進を図る。授業連絡カード等を活用	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教科指導	学習習慣の確立と基礎学力の充実	学習習慣をつける取り組みを充実させ、成績不振者に対しては指導を綿密に行う。 授業時のマナーを厳守し、授業規律向上のため、問題点については早期解決を図る。 出席率98%以上を目標とし、基本的な生活習慣を身につける雰囲気作りを醸成する。		
	授業の工夫・改善	指導計画、指導方法、評価方法等を十分検討し、PDCAサイクルにより授業改善を図る。		
	新学習指導要領への対応	観点別評価規準及び基準の課題を検討し改善を図る。 新教育課程における課題を検討し改善を図る。		
	生徒指導	基本的な生活習慣の育成	場に応じた行動や言葉遣いができるように指導し、服装頭髪に対する意識を高める。 校内外の巡視を随時行い、問題行動の未然防止に努力する。	
	生徒会活動の活性化	役員としての意識の向上を図り、各種学校行事のリーダーとして行動できるよう指導する。 生徒のリーダーとしての自覚を持ち、学校生活の各場面で高い意識を持って行動できるよう指導する。		
	交通安全の充実	登下校指導を中心に、生徒の安全に対する意識を高める。 自転車通学生を対象に、自転車乗車マナーの向上を図る。		
	家庭との連携	担任を中心に、学校の方針を理解し、協力していただける良好な関係づくりの構築を目指す。		
部活動	部活動の活性化	部活動への関心を高め、新入生の入部を促進し、加入率40%を目指す。 部活動生としての意識を高め、複数団体の県大会出場を目指す。		
	進路指導	組織的・系統的な指導	全職員による企業訪問を行い、求人開拓の強化を図る。 求人・進学の情報共有を徹底し、適切な進路指導の実現を目指す。	
	就職内定率の向上	出席率の向上を図り、基礎学力の定着を目指す。 学年・学科・他分掌等による指導の把握と連携強化により、生活指導の強化を図る。		
	適切な進路選択、早期離職防止	進路ガイダンスなどの実施し、進路意識の向上を図る。 応募前職場見学を充実し、早期離職の防止を図る。		
保健環境	「自分の健康は自分で守る」態度の育成	100%の検診と保健室の適正利用で、健康管理と病気の予防、発見・早期治療の意識を高める。 保健便りを通して、健康増進の啓蒙活動につとめ、家庭と連携しつつ生徒自ら健康を管理できるようにする。 生徒保健委員会の活動を充実させ、生徒の健康課題の把握と改善のための食育、研究活動を行う。		
	安全で快適な学校環境づくり	美化委員会の美化点検と清掃監督の指導で、校内外のゴミの減量・分別・再利用を徹底する。		
図書・研修	校内研修体制の充実	基礎基本を念頭においた、より実践的な内容で研修を行う。 お互いに参観しやすい研究授業のあり方を検討・実施する。		
	図書・研修	図書館オリエンテーションの早期実施とわかりやすい活用方法を提示する。		

図書館及び読書推進委員会の活性化

図書委員会を活性化し、生徒主体の活動を増やし、生徒発信の図書館利用に対する啓発を行う。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
広報・庶務	PTA・同窓会及び地域との連携を図り、広報活動に努める	学校ホームページを活用して情報提供に努める。また、中学校訪問などを行い、本校のPR活動に力を注ぐ。 PTAと協力しながら学校行事の活性化に努める。		
1学年	基本的な生活習慣の確立	家庭との連絡を密に取り、安易な欠席をさせない雰囲気を作り、健康的で規則正しい生活を送らせ、出席率98%以上を目指す。		
	学習態度の育成	授業担当教員と担任及び学年が連絡を密にし、生徒が毎時間の授業に集中して授業を高校生活の中心に考えるように指導する。		
	社会性や公共性の育成	校則を遵守し、「何事にもがんばる生徒」を育成する。集団の中で自己の役割や存在意義を考え、状況に応じた行動が取れるように指導する。		
2学年	基本的な生活習慣の確立	家庭との連絡を密に取り、安易な欠席をさせない雰囲気を作り、各クラス及び学年の平均出席率98%以上を維持する。		
	学習態度の育成	各時間に不必要な教材等が机上や机の周辺に出たままにしないために、放課後に教室を確認し、教材を持ち帰らせる。		
	社会性や公共性の育成	校内のみならず校外生活においても他者の目を意識して行動できるようになるよう、学年集会やHRを通じて指導する。		
3学年	全員の卒業をめざす	出席率98%以上を目指す。問題を抱えた生徒に対して学年全体で取り組む。		
	最高学年としての自覚を促す	最終学年として、社会人になるために必要な教育活動を完成させる。		
	全員の進路決定	早くからの進路意識を生徒に喚起させる。日々の生活が面接指導であるという意識を持たせる。		
農場	環境教育推進と地域貢献における農場活用	本校同窓会と連携し、1年生の学校林下草刈り実習を行い、学校林の保有と環境保全(山の役割)を学ぶ機会とする。 農場を開放し地域の食の発進地として、小学生や保育園児の体験実習を受け入れ、農業教育の推進を図る。		
	農業クラブの活性化と農業アクションプランの実践	両科が連携して、クラブ員・職員が協力し、農業クラブの県連事務局としての任務を果たし、すばらしい大会にする。 総合型専門高校として、福岡県産業教育フェアや地域のイベントに積極的に参加し、学校の活性化を行う。		
農業技術科	生徒指導の充実	科と学年(担任)が連携し、基本的な生活習慣と基本的な学習習慣の確立と育成に努める。		
	教科指導の充実	専門教科の充実を図り、資格取得の意義を理解させ、教科指導の充実を図る。		
	進路指導の充実	2年生でのインターンシップ(農企業体験)の実施で、勤労意欲や学習意欲の向上に努め、進路指導の充実を図る。		
環境緑地科	教科指導の充実	教科の専門性を高めるため、実習内容をコース制(造園施工・フラワーアレンジ)を取り入れ、専門技術資格取得に向けた授業展開を目指す。また、実習庭園の作成に取り組む。		
	地域連携の充実	行橋市、沓尾守田沙州邸の庭園修復ボランティアやハウステンボスガーデンフェスタに生徒作品を出展するなど、生徒が活躍できる場面を多く設定する。		
	進路指導の充実	面接を意識した行動・マナーを日々の生活で身につけさせる。また、インターンシップを実施し専門技術を生かした進路をサポートする。		
総合ビジネス科	教科指導の充実	基礎・基本を徹底し、全体の底上げをする。上級資格取得や全商検定3種目以上の1級取得者を多く出せるように努める。		
	進路指導の充実	進路指導部と連携をはかり、国立・公立大学への進学者が輩出できるように努める。		
	生徒指導の充実	時間厳守を徹底し、社会人として必要なマナーや言葉遣いの指導を行う。間違った言葉遣いを行った場合には、言い直しをさせる。		
生活デザイン科	教科指導の充実	専門科目の授業に意欲をもって取り組むことができるよう、生徒の実態に応じた学習指導の工夫、改善を行う。		
	進路指導の充実	専門科目の特性を生かしたキャリア教育を行い、早い段階での職業観や自己理解の意識を育成を図る。		
	生徒指導の充実	言葉遣いや身だしなみ、マナーを確立させるための指導を徹底し、常識ある社会人となるための意識を高める。		